社会福祉法人　友愛学園
広報紙　Vol.19

発行日　2014年 1月15日
発行人　社会福祉法人　友愛学園
〒198-0001
東京都青梅市成木2-107
電　話　0428-74-5453
ＦＡＸ　0428-74-6906
http://www.yuaigakuen.or.jp/

この季節がやってくると…

理事長　**柘植 吉治**

毎年のことでありますが、この原稿に取りかかった十二月になると、ある思い出に浸っている自分に気づきます。それは当法人の創立者グループの中心的存在であり第二代理事長でもあった故実川 博先生に関する思い出であります。

それは昭和六一年（一九八六年）の十二月某日のことでありました。「いい肉が手に入ったから飲みに来い。」というお誘いがありました。お言葉に甘えてご自宅に伺うと、そこには主だった理事のお顔がありました。

当時、友愛学園成人部改築の第一期工事が進行中でありましたので、それに関する話題で座は盛り上がっていたように思いますが、実川先生からは、「この一ヶ月を費やして年賀状を書き上げて少々疲れ気味だ（何枚であったか記憶にありませんが、五百枚を超える数だったようにも思います）。」とのお話があったことは、良く覚えています。先生は一二〇キログラムに近い巨体巨腹の体型で、普段からその健啖振りは際立っており、見ていると小気味よさを超え、呆気にとられてしまうほどでしたが、その当夜の食べっぷり、飲みっぷりも群を抜いておりましたので、成人部建物改築の完成後も当分友愛学園を見守って頂けるものと、安堵の気持ちで帰宅の途についたものでした。

それから間もなく、話題となった先生からの年賀状を手にした直後の一月五日、入院されたとの報を受けました。早速入院先に駆けつけた私の目に映ったのは、素人目にも容易ならざる病状であることでした。それから二週間、昭和六二年（一九八七年）一月二八日、私たちの願いも空にして八十歳を寸前にこの世を去って行かれました。まさに〝巨星墜つ〟の心境でした。

さて、そのときの年賀状は今も私の手元にありますが、この稿で触れたかったのはそれに書かれている内容であります。まず次の文字が標語の様に記されていました。大きな墨字で〝平和・福祉・教育・健康〟とあり、それを纏めるかのように〝不断の努力〟と書かれています。

先生は日頃から日本国憲法にまつわる話を良くされておられましたので、その大切さを年賀状の文面に込められたことが容易に理解できました。

先生からは、「友愛学園の経営理念は日本国憲法の精神にある。」と度々聞かされました。最初は「何を大げさな」とも感じておりましたが、利用者の幸せを目指す温かな心遣いは勿論のこと、利用者の家族と職員一人一人にも同様な姿勢で友愛学園の経営に尽力されている姿を見ているうちに、その意味が私にも理解できるようになりました。

日本国憲法では、一人一人の基本的人権を尊重することを大切な柱の一つとしています。現今の社会では、このことが軽視されているかのような現象が多くなって来ているように感ずるのは私だけでしょうか。これは現憲法の基本理念とするところの民主主義が、この社会から遠のきつつあるとも言えるのではないでしょうか。

実川 博先生を偲びつつ、友愛学園においては民主主義の火を点し続けたいと、新しい年を迎えるにあたって切望するものであります

友愛学園祭

平成二五年度第三八回友愛学園祭が十一月三日、文化の日に多くの来場者にお越し頂き盛況に開催をすることができました。

当日の朝方は雲が広がっており、天候を心配しましたが開始まもなくして、徐々に雲の隙間から秋らしい日が差し込み、絶好の学園祭日和となりました。今年度は成人部で第二作業棟の竣工が目前であり、「成人部第二作業棟竣工記念」と銘打って行われました。当日は来場された方々へも新作業棟の見学スペースを設けてご覧になって頂きました。

開催日が文化の日とあって、市内をはじめ近隣地域においても沢山の催し

や行事などが開催されており、当初来場される方がどの位いるのだろうかと気がかりでした。しかしながらそんな心配もよそに、学園祭が開始された時刻には、既に地域の方々を始めとする多くの方々にお越し頂いており、胸をなで下ろしました。

さて、学園祭といえば利用者さん達

にとっては、発表の場です。成人部からは、歌唱やダンスなどを交え、利用者さん達が楽器を持ってのアンサンブルを披露してくれました。「風になりたい」ではサンバの曲調で会場の方々も陽気な音楽に体を揺らして楽しんでいる姿が印象的でした。

児童部からは今年も可愛らしいスター達が「ミッキーマウスマーチ」などの曲をステージの上で所狭しと元気

に歌とダンスで魅せてくれました。ステージではその他にも「チアリーディング」「バルーンアート」「フルート演奏」「バンド演奏」「神代太鼓」などが披露され会場も大いに盛り上がりました。

ステージ以外でも会場では例年通り、友愛学園ばかりではなく地域の事業所の出店もあって多くの模擬店が出店されており、来場された方の舌を満足させていたのではないでしょうか。

子ども達に目を向ければ、ゲームコーナーでお目当ての景品を狙って頑張る姿が見られましたし、その他にも成人部の日中活動での作品販売や、はぁとぴあ原宿からの作品紹介、販売ブースもあり、そちらも多くの方々の注目を集めていました。

第三八回の学園祭も特色豊かな催し

物や模擬店が並び無事に終えることが出来ました。

開催にあたっては、各関係の皆様、地域の方々や多くのボランティアにご理解とご協力を頂きました。毎年の事ではありますが沢山の方々のご尽力と繋がりを強く感じるところであり、ご協力頂いた皆様には心から感謝致します。

友愛学園 作品展

かわいいモノと小さな芸術祭

二〇一三年九月二一日から一〇月六日までの一六日間にわたり、テーマを「自然とエナジー」と銘打って、青梅市西分町「BOX KI・O・KU」など三会場を使って開催され、来場者は三五〇〇人にも上りました。

このテーマは、障害を持つ人々の感受性や表現力は、自然に対しても高い精神をもってメッセージを届けているとの考え方から決まりました。

この芸術祭には、友愛学園だけでなく二二の障害者施設が参加して約一五〇点の作品が展示されました。

大胆な色遣い、力強い線、斬新な発想、緻密な細かい表現と、見学者を驚かす作品揃いでした。

展示された作品

芸術祭は作品展示の他に四つのプログラムから構成されました。「映像」「体験」「パフォーマンス」「ショップ」です。

映像は映画「タケオ」の上映です。ダウン症の青年「タケオ」がアフリカンドラムの演奏活動を行うドキュメンタリーです。当日は映画上映と共にタケオさんによるライブ演奏もありました。

体験はワークショップ。会期中三回の週末、様々なワークショップが開催されました。織り体験、紙すき体験、木のアート（積み木作り・ネームプレート作り）Tシャツペイント、音楽療法など、多くの親子連れや参加者で賑わいました。

積み木を作ろう

お子さんの参加が目立ちました。障害者施設のイベントに子供さんたちがきてくださるのは大歓迎です

Tシャツに絵を描こう

思い思いのオリジナルTシャツができあがりました

パフォーマンスは、絵本作家田島征三氏のトークイベントと詩人谷川俊太郎氏の朗読会で、大好評でした。

朗読会には一〇〇名を超える応募があり皆さん素敵な時間を過ごされました。

田島征三さんは作品も展示してくださり、青梅で田島作品の「ホンモノ」に出会えたと喜びの声が寄せられました。

谷川氏と田島氏の集客力でより多くの方に作品展を見て頂けたと思います。

朗読中の谷川俊太郎氏

田島征三氏の作品

今までも成人部は「作品展」を行ってきましたが今回のように他の多くの施設に呼びかけたのは始めての試みでした。ワークショップも各施設が自分たちの得意分野を担当しました。各施設関係者の来場も多く施設同士の横の繋がりも生まれました。

多くの施設に多くの表現者がいること、その力を活かし作品に仕上げていくのは支援者たちの「腕の見せ所」であること、そうして作られた作品はこの上なく斬新で魅力的であることを感じた芸術祭でした。

絞って模様をつけて染めた布

和紙を貼ったカラス

友愛学園 成人部

第二作業棟完成！

木造のおしゃれな第二作業棟ができあがりました。公益財団法人ＪＫＡ様の補助をいただいています。補助事業が完了する次号にてご報告いたします。利用者の皆さんにゆったり過ごしていただける建物になると思っています。

今年度も旅行に行きました！

利用者の皆さんが大変楽しみにしているグループ旅行。五月から十一月にかけて宿泊組十五グループ、日帰り組九グループに別れて出かけました。どこに行くかは各グループに任されていますのでそれぞれ利用者さんの希望や、体調を考慮して行き先を決め、河口湖・那須・軽井沢などに出かけました。

保護者給食試食会を行いました！

保護者の方々は「我が子が、我が兄弟がどのような食事をしているか」は大きな関心事です。食事は言うまでもなく利用者さん方の日々のお楽しみです。常食だけでなくソフト食とペースト食の味見もしていただきました。終了後のアンケートでは概ね好評でした。

太鼓の日中活動が始まりました！

和太鼓の音は、身体に振動と共に伝わり、人間の原始からの感覚を呼び起こすような気がします。日中活動で和太鼓を取り入れたいと長年の悲願がかないました。講師の方たちは、熱意とボランティア精神で、遠方にもかかわらず、交通費も十分ではないにもかかわらず来ていただけることになりました。

まだホンモノの太鼓は数が少なく、タイヤの太鼓も交えての活動です。月一回の活動日は活気と笑顔があふれています。

運動会を行いました！

大学生のボランティアグループである「山の子」が、毎年恒例の「運動会」を開催してくれました。

友愛学園 児童部

この度、東京消防庁青梅消防署から「広報業務協力功労感謝状」の贈呈がありましたのでご報告致します。

去る十一月一四日（木）青梅市民会館にて火災予防業務協力者に対する表彰式及び防火講演の開催があり、法人から事務局長が出席して感謝状の授与を受けました。

これは平成二五年度の火災予防運動に際して、火災予防にかかわる広報業務へ協力したことに対しての感謝状ということで、児童部ではこれまで毎年、「はたらく消防の写生会」へ参加をさせて頂いておりました。本来、学校などで行われているものでしたが消防署から、「消防車などを学園に持って行きますので児童部でもどうですか」とお誘いを頂いたことがきっかけでした。

例年五月頃に、学園の園庭に消防車及び消防士さんにお越し頂き、写生会を行っています。

感謝状

社会福祉法人
友愛学園児童部 殿

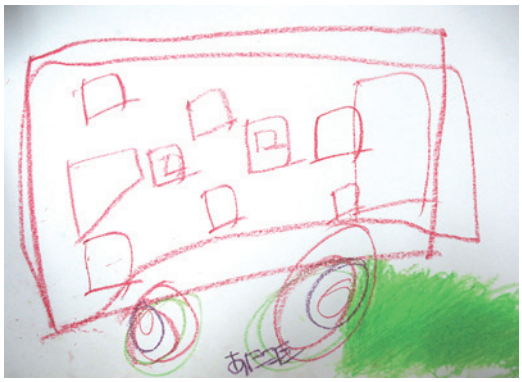
貴殿は平素から消防行政に深い関心を寄せられ防火に関する広報を積極的に推進し地域社会の安全安心に寄与されました
ここに秋の火災予防運動にあたり深く感謝の意を表します

平成二十五年十一月十四日

東京消防庁
青梅消防署長 杉田克明

子ども達も普段、中々間近で見ることが出来ない消防車に目を輝かせ、消防士さんとお話しなどをしてふれあうなど、子ども達にとっても有意義な時間となっています。また、描いた絵はその後、消防署の展示スペースに展示されたり、ポスターとして市内の学校や市の関係機関などに張り出されたりしています。

子ども達が描いた消防の絵が、こうした形で地域の消防活動へ寄与していること、その結果として感謝状を頂いたことを大変嬉しく思っています。



地域支援・相談支援

一　グループホーム

友愛学園の行事に参加しました。

（一）学園祭（十一月三日）

すてっぷ小中尾は、前年に引き続き模擬店に参加し、コーヒーとポップコーンを販売。ポップコーンのカップ詰め、お客さんの呼び込み、販売等、〝お店屋さん〟を楽しみました。皆さん積極的で、売り上げは前年よりも一万円上乗せです。

ハウス小嶺の利用者は、〝赤い羽根の共同募金〟を担当。募金をいただいた方に、羽根をつけてあげました。

（二）アートフェスタ（十一月十七日）

成人部のお店で、お客さんの呼び込み、ゲームコーナーや作品販売の手伝いをしました。夕方から後片づけのために参加した人もいます。皆さん自分のやりたいイメージがあるようで、楽しい一日を過ごしました。

二　相談支援事業

青梅福祉作業所で行っていた相談支援事業は、昨年十月一日付けで「相談支援事業所おおぞら」として独立。成人部地域支援が継続して担当します。

平成二十七年四月から障害福祉サービスを利用するには、サービス等利用計画がないと支給決定が受けられず利用できなくなります。

青梅市の十月末現在の計画作成率は、必要計画作成数約八百件の二％に留まっています。自立支援協議会で再三、順次作成依頼をしてきた結果、十一月のサービス受給者証の更新分から作成に動き出しました。

十一月に入り、放課後等ディサービス事業を中心に十件の計画相談の依頼が来ています。障害が重く、どう関わったらいいかわからない等のケースも多く、まずはご家族の話をよく聞き、障害を理解してもらい、在宅で安心して暮らせるように制度やサービスの情報提供をして、サービスにつなぐ等、関係機関・事業者とも連携しながら取り組んでいます。

市のサービス等利用計画関連の会合で事例報告等をしました。

八　月　市内精神保健福祉関係者情報交換会（困難ケースの事例報告）

十一月　市内六相談支援事業所を対象に特定相談支援研修会（計画の作成方法及び留意点の事例報告）

青梅市障害者就労支援センター

就労支援の現状

今年度から、障害者の法定雇用率が二％に引き上げられ、就労をめざす皆様には追い風となっています。

東京都では二十三年度、二十四年度と新規就職者数の記録を更新してきましたが、今年度に入ってからも堅調であり、ハローワーク青梅でも学卒者を中心に順調に実績を伸ばしていると伺っています。

当事業所に於いても昨年十一月末で在宅者の方、十六名が新規就職を果たしました。しかし、就職できる方は求職者のごく一部に過ぎません。一年近くも就職活動を行い、就労に結びつかない方もおります。

また、新規就職された方については、職場定着のための支援が非常に大事になります。会社訪問、定期面談、ジョブコーチ等の定着支援は、相談件数の約四割を占めており、この事業の大きな位置を占めています。

障害者雇用の環境整備が進んでいますが、それに満足することなく、利用者さん本位の支援を丁寧に実践していきたいと思います。

障害者理解推進見学会

今年度の取り組みの一つに、青梅市、青梅商工会議所、ハローワーク、就労支援機関が連携し、地元企業に対して障害者雇用の理解と拡大を継続的に働き掛けていくことになりました。

今回の企画は、地元企業の皆様に障害者教育の取り組みと福祉施設での活動を見ていただき、障害者に対する理解と雇用促進を図る機会として実施され、六企業、十名の参加をいただきました。

見学先として、四年前に地元青梅に開校された障害者特別支援学校「青峰学園」と青梅市が設置した障害者福祉サービス事業所の「青梅市自立センター」にご協力をいただきました。

青峰学園では、就業技術科の職業に関する授業を見学し、その中身の充実振りとレベルの高さに感心されておりました。また、青梅市自立センターでは、作業風景や生活支援の様子をつぶさに見ていただき、障害者への理解を深めていただけたと思います。

今後もこのような企業向けの事業を関係機関との連携のもとに実施し、障害者雇用の推進に努めてまいります。

青峰学園　就業技術科（食品）

青梅福祉作業所

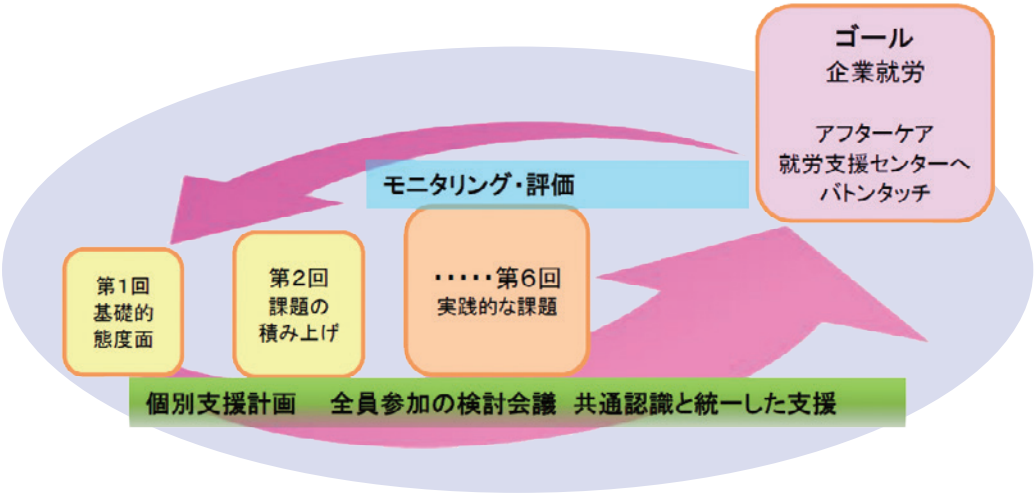
平成二五年度で、やっと企業就労者第一号がでました。就職先は、NECフレンドリースタフ（NECの特例子会社府中）です。

就職した人は、都立羽村特別支援学校を昨年卒業して一年と半年間当作業所でトレーニングを受けてきた人です。

提供した個別支援計画は、合計六通になりました。最初の頃の計画は、言葉づかいなどの態度面が強調され、連絡調整を自分で行うことや、ちょっとしたことで休まない精神力、身だしなみなど基本的な事に重点を置いてつくりました。

当作業所では、個別支援計画検討会議を毎月二回開催しています。管理者や事務職員、看護師、非常勤職員も含めた全員が参加して、意見を出し合い、支援のポイントなどを共有します。

あいさつなどの態度面を教えるには、何気ない日常の中に自然な形で身に付かせていく方法が効果的です。何気ない日常に関わる職員は、支援員だけではないですから、月二回の検討会議で全職員が認識していくことがとても重要になっていきます。



モニタリングや職能評価をして計画を更新していきます。テーマは基本的なことから仕事量や技術面に移っていきます。態度面ではテキパキすることなど、より実践的なものに変化していきます。

技術面では、清掃関係を重点化しますが、それ意外については、重きを置きません。例えば箱を上手に折れても企業就労に役立つわけではないからです。むしろ、簡単で単調な作業をコツコツと長い時間持続して行えることの方が大切です。当作業所には、企業で二、三〇年も働いてきた人も通ってきていますが、その人達には、間違いなくそうした「コツコツ」が身に付いています。

さて、就職に近づいてきた計画になると「ストレス耐性」や「プレッシャー耐性」ということばも出てきます。企業で働く上で誰しもが体験する厳しい状況を模擬的に体感するものです。計画の説明面談では、ご家族にも参加してもらい、「すこし厳しい言葉で注意されるような場面があります。」と説明しておきます。模擬的とはいっても、本番さながらに怒られるという場面が起きますが、このようなトレーニングで就職した後に会社側に配慮してもらうことなどがわかってきますし、何よりも本人達がたくましくなっていきます。

今回就職した人は学校では企業就労組ではありませんでした。お母さんの話によると就職できた会社のことを在校中から知っていたけれど、雲の上のまた上のような話だったそうです。

遅咲きのタイプの人にとって年限のある学校では、どうしても結果が出ないこともあります。最近の実習生やその家族には、学校であわてて就職して、失敗するよりも当作業所を利用してじっくり時間をかけて準備しましょうと言うことがあります。

就労支援研修で、特例子会社の社長が「就労支援機関と私たちにズレが生じていると感じます。技術は私たちが責任を持って教えます。就労支援機関では人を育ててほしいのに、私たちが望んでいない技術を一生懸命教えているのです。」と言っていました。

人を育てるということは時間がかかるものです。そして、小手先の支援ではできないからこそ、個別支援計画を基軸に非常勤職員も含めた全職員の共通認識を醸成させ、実践していくことが大切なことなのです。

はぁとぴあ原宿

第五回 はぁとぴあ祭

十月十九日（土）に第五回はぁとぴあ祭が開催されました。今回も天候に恵まれ、多くの方々にご来場を頂き大盛況となりました。

開会式には、桑原敏武区長をはじめ、前田和茂区議会議長、都議会議員・区議会議員の皆様、そして友愛学園柘植吉治理事長にもご臨席を賜り、利用者様の代表による開会宣言とテープカットで、盛大にはぁとぴあ祭が始まりました。

出店は、『はぁとぴあ原宿家族会』や『つくしんぼ親の会（はぁとぴあキッズ卒園児・親の会）』なども含め、渋谷区内から多くの団体にご参加を頂きました。毎年好評の手織り製品やハガキ・小物類の作品、菓子類、取りたての新鮮野菜の販売、バザーなどで賑わっていました。

模擬店は、お寿司、やきそば、チキンなどの定番メニューに加え、原宿ドックが好評で全て完売となりました。

ゲームコーナーは、ヨーヨー釣り、おもちゃすくい、ピンボール、サイコロゲームなどがあり、たくさんの子どもたちの笑い声や笑顔で賑わっていました。

ステージ会場では、午前は美術家で映像製作家の石井秀明氏主宰の影絵サークル「シルエットフェア」、午後は病院や施設で音楽を使ったリハビリを行なっている「ミュージックasパレット」による音楽の演奏が行われました。

影絵の公演では、森のくまさん、ゆきおんななどの歌や劇で計五つの演目が行なわれ、大人から子供まで影絵の魅力に引き込まれている様子でした。

音楽の公演では、馴染みのある歌謡曲をお客様と一緒に楽しみました。その他にも、オペラやシロフォン演奏を楽しんだり、実際に楽器に触れて楽しむことが出来る時間を作るなどしてアットホームなステージとなりました。

今回の、はぁとぴあ祭も無事に終えることができました。開催に当たっては、渋谷区の各関係の皆様や、友愛学園本部の皆様などの多くの方々にご理解とご協力を頂き、心より感謝いたします。

●神宮外苑イチョウ並木散策

成人・児童の利用者様にとって、すっかり冬の装いとなった原宿の街の、この時期ならではの楽しみの一つに、明治神宮外苑イチョウ並木の散策があります。

昨年も黄金色のイチョウや黄色いじゅうたんが綺麗でした。

昨年一年ありがとうございました。また今年も、はぁとぴあ祭で皆様と笑顔でお目にかかれますことを願っております。

●渋谷区長表彰の受賞について

さる一二月七日に、平成二五年度渋谷区「障害者週間」記念式典が、渋谷区文化総合センター大和田で開催され、その席上、はぁとぴあ原宿を利用されている次の四名の方が区長表彰を受賞されました。

誠におめでとうございます。

清原　八ナ子様、中村　郁子様、
平西　降壽様、山中　良子様

平西様はご都合によりご欠席のため、妹様が代理受領されました。

INFOMATION

インフォメーション

●社会福祉法人友愛学園「給与・人事検討委員会」を立ち上げました

今、社会福祉法人の置かれている社会環境や今後の方向性などについて、各界から様々な意見が出されており、友愛学園としても、それらの外的事情を無視して事業継続していくことは困難になっています。そのような中で、社会福祉法人友愛学園では、人材の育成と組織の活性化や効率的な組織運営等を行っていくために、中長期的視点で事業の再編成を行うことを目的として、事務局長を中心に各事業所の所長等からなる新たな検討組織、「給与・人事検討委員会」を平成二四年七月に立ち上げました。具体的検討を行うにあたっては、外部の専門組織の力も借りることとして、株式会社エイデル研究所と委託契約を結び、その意見を聴きながら検討を行っています。

昨年七月には、各施設の職員を対象にそれまでの検討結果を中間報告し、その後は給与規定の見直しなど事業の再編成に関わる様々な内容ついて、検討を進めているところです。

●二〇一三（平成二五）年度「友愛学園実践報告会」を開催しました

昨年九月二四日火曜日の午後、友愛学園各事業所の事例研究を目的に、各職場から三四名の職員が参加して実践報告会が開催されました。

参加した職員からは「今後の支援の目標設定と取り組みまで話をして欲しかった」「専門家との協同や他機関との連携、家族支援と仕事が多岐ということを知ることができた」「事業所の業務を細かく説明されたので、理解することが出来た」などの声があり、職員相互の刺激になったものと思います。

終了後、事務局長から「福祉の仕事は外に発信する機会が少ない。こういった機会を活用し、発信する力を高めるとともに、自分自身の仕事を振り返る機会として欲しい。」との講評があり、職員の自己研さんの手段の一つとして、今後もより一層、実践報告会の充実に努めていきたいと考えております。

●「輝くブルーハートお助けマン」養成講座へ参加しました

十一月十九日青梅市役所で、「障害者に手を貸したいと思っても方法が分からずにいる方々」、「助けを求めたくても求められない方々」の意識の掘り起こしを目的に青梅市地域自立支援協議会が実施している「輝くブルーハートキャンペーン」の一環として「輝くブルーハートお助けマン」養成講座が開催されました。当日は、二一名の参加者を迎え、三障害別の講義、車椅子操作の基本やブラインド体験、ミニ座談会が行われました。友愛学園成人部では、お助けマン講座修了者に贈られる、キーホルダーのデザインと作成、利用者作成の絵画提供、「知的障害者への理解」をテーマに講義を行う、などの協力をさせて頂きました。

お助けマン養成講座
（知的障害への理解の講義）

●法人初めての「主任・リーダー研修」を開催しました

十一月二八日、青梅市福祉センターで、法人理念の検証及びそれに基づく行動を学ぶこと、さらには法人実施事業の課題と展望について論理的に考察していくことを目的として、主任・リーダー研修が開催されました。

当日は各施設の中核職員、主任・リーダー二十人を中心として、理事長、施設長・管理職が参加し、熱心な研修が行われました。研修の内容は、理事長の講話、困難事例等の研究、各施設の課題などについて、個別のグループごとに検討を行うなど、朝から夕方までみっしりと充実した研修の一日でした。

主任リーダー研修
（熱心な質疑の様子）

後援会へのご加入案内

当法人では後援会にご加入いただける方を募っております。ご協力くださる方は左記までお問い合わせ下さい。詳しいご案内をさせて頂きます。

目的　友愛学園の事業を後援していただくことを目的としております。

会費　一口　千円

連絡先　友愛学園　後援会事務局

電話　〇四二八―七四―五四五三

FAX　〇四二八―七四―六〇八七

編集後記

広報担当になって、一年が過ぎましたが相変わらず、手探り状態が続いています。友愛学園が取り組んでいる各種の事業、研修などについてもお知らせしていきたいと思い、今号から少し紙面の変更を試みてみました。忌憚のないご意見をお寄せください。今後ともよろしくお願いします。（O）